

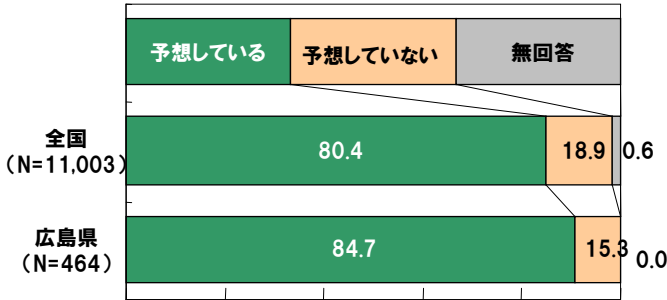
防災・減災に関するアンケート調査結果

紙面アンケート
(設問・背景・アンケート結果)

2006.12

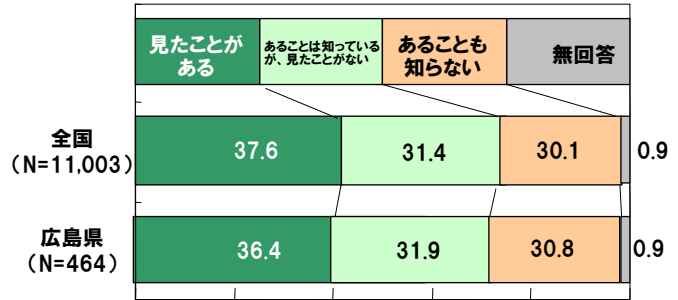
防災・減災に関するアンケート調査

Q1. あなたの地域で、水害が起こりうると予想していますか。



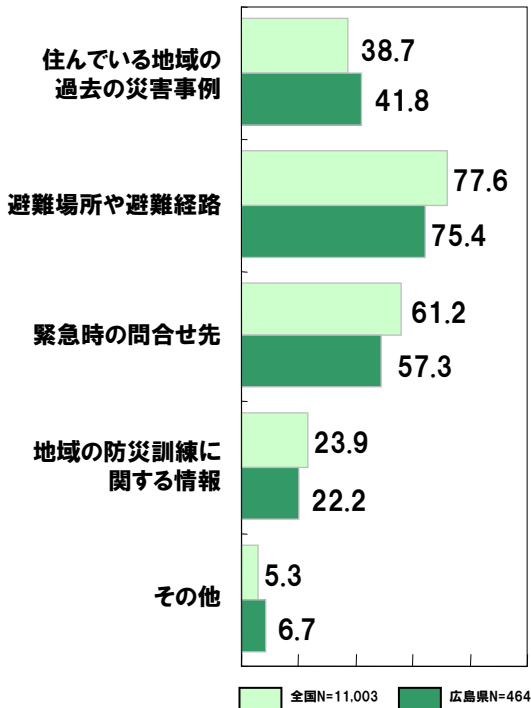
全国で80.4%、広島県では全国より更に高い84.7%が「予想している」と回答。昨年は86.6%であり、ほぼ横ばい。昨年は台風14号の直後、今年は台風13号よりも前の調査であり、災害前でも意識が高いままであることが伺える。

Q3. あなたは地域のハザードマップを見たことがありますか。



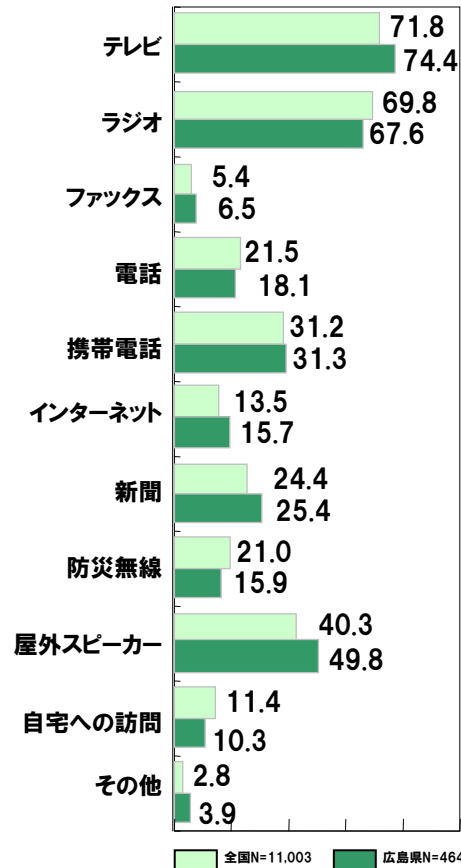
広島県では、地域のハザードマップを見たことがない、あることも知らないを合わせて62.7%。昨年は7割以上であり、若干の改善が見られるが、まだまだ不十分な実態が浮き彫りになった。

Q2. 日頃から災害に備えるために知っておきたい情報は何ですか。



「避難場所や避難経路」が、75.4と最も高く、次いで緊急時の問い合わせ先57.3%、住んでいる地域の過去の災害事例41.8%と続いた。全国とほぼ同じ結果となった。

Q4. 水害が起こった時はどのような方法で情報を入手したいですか。



テレビ74.4%、ラジオ67.6%と、速報性のある媒体が上位となった。また、広島では、全国に比べ屋外スピーカーの割合が高い、という結果が出た

防災・減災に関するアンケート調査

Q5. 防災・減災の観点から日頃あなたが思っていることや、防災・減災に関する地域の取り組みを進めていく上での課題など、どのようなことでも構いませんのでお聞かせください。

自由意見	性別	年代
・防災訓練に老若男女を問わず多数参加させる。町内会組織に未加入世帯が増加の傾向で近隣のコミュニティー不足で共助の不確立。	男性	70代以上
・昨今は急激な地球温暖化による異常気象がもたらす大災害が世界中で多発し、人命も含め被害が甚大で、深刻です。にもかかわらず、温暖化対策があまりにのんびりしすぎているように思えてなりません。それどころかあまり考えずにCO2をどんどん発生させ続けています。もっと危機感をもって、早急に対策を考え、国民全体にそして世界にも呼びかけて、温暖化を防がないと既に大変なところへ来てしまっているのではないのでしょうか。もはや法律や罰則をもってしないと間に合わないのではないかと憂慮します。	女性	40代
・都市計画、自然はかい減少する・家の購入等は、土地の地盤や基礎工事設計等は、自から全てを調べる、又その土地の季候等を災害について事前について調べる事は大切である。	女性	30代
・日頃から地域で避難訓練を行うべき。・どこの家庭でも防災グッズを備えておくことを義務づけるべき。・大地震が起きた時に大災害を起こさないために、高層ビルの建設はこれからはあまり行わない方がいいと思う。・近い将来、東京では大地震が起こると予測されているし、私も必ず起こると思っているので今からでももっと具体的に防災対策をたて、一人一人にもっと注意を呼びかけるべきだ。	女性	10代以下
・非常時の持ち出しグッズの整備・避難場所及びルートの確認・気象情報及び避難情報の適確な連絡手段	男性	60代
・防災について、台所のガスの使用を電気へと切り換えてゆく・天災について、台風などで潮の浸入を防ぐ方法として『港から家屋が密集している所への減災策』。港へ鉄版(中にコンクリート)ふだんは土地の中に入れておき、災害がおこりそうな時、ボタン操作で上へと出てくる様にする。・土砂ずれの対策、梅雨時、事前に点検し、大雨が降ると危険な場所を補強しておく。	女性	30代
・防災マップや緊急連絡用の表を見えるところに貼る。・町内会の取り組みについての情報を常に得るようにする。	男性	60代
1. 災害に備え食品・薬品・ラジオ・懐中電灯を常備している。2. 特に新聞は必ず目を通し情報収集する。	女性	50代
1. 防災意識向上のため破堤等の浸水地域の公表。2. 人工斜面、よう壁、堤防の健全度調査。3. 防災のハード対策の強化。防災のソフト対策のけいもう。	男性	70代以上
1危険な場所等の整備を希望する2防災訓練や、説明等をもっと取り入れてもらう	男性	年代不明
1度川が決壊し、少し油断していたらあつと言う間に車が流されてしまった。今度はその経験を生かし少しの増水、危険であれば高い所に避難しようと思う。	女性	30代
20年も団地の自治会に入っているが防災についての話し合いは住民サイドにはいっさい聞こえてこない。身近な所で意識を高める為の情報・訓練などが必要だと思います。	女性	50代
H11. 6. 29の大雨で我家の前の道路が流されてしまいました。車が通れる道が一本しかないので復旧するまで時間がかかり苦労しました。(現在も河川工事が続いています。)生活道路が一本というのは災害が起きた時孤立してしまい不自由です。迂回路の整備を地元の声を聞いて着手して欲しいです。	女性	40代
H16年9月の台風18号で高潮被害があったが報道機関が入ったのが1週内位、あとで被害実態が報じられなかった。	男性	60代
TVでの関連番組の放送(ドキュメント)。自治体の公報	男性	70代以上
あまり身近に感じていないので、正しい情報を集めなければいけないと思っている。	女性	40代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
いざという時のためネットワークの充実と地域での日ごろの環境の把握がもっと必要と感じています。	男性	50代
いざという時の為に、日頃から一人一人の認識が必要だと思う。他人事ではなく、自分にも起こりうる事として、普段から災害対策をしておく。	女性	30代
いざとなったら冷静に行動できるかどうか。	女性	40代
イザとなると停電になったりしてテレビ、FAX、電話などは利用できないと思います。なので自分自身が気を付けて日頃から情報収集に心がける事も必要だと思います。一番良いのはラジオと感じています。	女性	50代
インターネットで地元の防災情報を流して欲しい。	男性	40代
うちは山をきりひらいた団地なので、洪水による土砂災害が予想される。自治体で定期的にそのリスクを調査して情報提供していただき、地域でそれをもとに訓練していきたい。	女性	30代
お寺さんが何処にでもお寺さんは有るのでカネはあるし...(銅)? お金しかない! 広いし良いかと思えます。	女性	年代不明
お年寄りの一人暮らしの家などを把握して優先的に救助する	女性	30代
ここ1年間で周辺の堤防沿いに情報盤が設置された。増水時にこれらを作動させて警告を促しても、川に来る人は釣人くらいで逆に川に近寄り釣りをしたり船を撤去させるので危険である。堤内地へ音声で警告する施設の整備と適正な運用を望んでいる。	男性	30代
ここでの質門ではないかもしれませんが、私の両親は山の下に家が建っています。側面には木々がありますが、ここをずれないよう工事をするのは市or自己負担となるのでしょうか。今迄はありませんでした。	女性	50代
ここは市ですが田舎の為人口もまだ少ない為大雨が降ると崩れそうな所が沢山あります。災害にあってからでは遅いので国はきちんと防災に力をかけてほしいと思えます。	女性	60代
この地域では屋外スピーカーなどが無いため地域内での連絡方法が不安です。新しい団地などで土地の変化に避難場所・経路は対応出来るのか確認したいです。	女性	30代
この様な災害はいつどんな形で自分の身にふりかかるかも...と台風接近時や梅雨時期はテレビやラジオやインターネットで情報をチェックしています。田舎の方ではあるのか知りませんが屋外スピーカーでの情報提供があると助かります。是非これは全国全地域で実施してほしいと思えます。	女性	30代
こんかいのアンケートを機会として自分の家の防災計画を家族全員で立案し、準備しておくことが重要だと思っています。	男性	60代
ダム放水の情報不足、浸水地域を重点整備判断・行動力養う必要。防災訓練への参加も大切だと思います。もう1回(度)水害への備え見直そう。	男性	40代
できるなら、危険予知情報が早く公表してもらえとうれしいが、それはまだ難しいですか? 日頃から家族や地域で避難方法など話し合っておく事が大事だとも思います。特に家族がバラバラの時に困るので、家族一人ひとりが自覚を持って普段から心に留めておかないといけないと思えます。学校や職場でも日頃から避難訓練はしてほしいですね。テレビやラジオでも定期的に啓蒙の意味で特集を組んでほしいです。	女性	40代
テレビ新聞の情報を大切に	女性	70代以上
とにかくパニックにならない事	男性	40代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
いざという時の為に、日頃から一人一人の認識が必要だと思う。他人事ではなく、自分にも起こりうる事として、普段から災害対策をしておく。	女性	30代
いざとなったら冷静に行動できるかどうか。	女性	40代
イザとなると停電になったりしてテレビ、FAX、電話などは利用できないと思います。なので自分自身が気を付けて日頃から情報収集に心がける事も必要だと思います。一番良いのはラジオと感じてます。	女性	50代
インターネットで地元の防災情報を流して欲しい。	男性	40代
うちは山をきりひらいた団地なので、洪水による土砂災害が予想される。自治体で定期的にそのリスクを調査して情報提供していただき、地域でそれをもとに訓練していきたい。	女性	30代
お寺さんが何処にでもお寺さんは有るのでカネはあるし...(銅)? お金しかない! 広いし良いかと思えます。	女性	年代不明
お年寄りの一人暮らしの家などを把握して優先的に救助する	女性	30代
ここ1年間で周辺の堤防沿いに情報盤が設置された。増水時にこれらを作動させて警告を促しても、川に来る人は釣人くらいで逆に川に近寄り釣りをしたり船を撤去させるので危険である。堤内地へ音声で警告する施設の整備と適正な運用を望んでいる。	男性	30代
まくら元にリュック(ビニール大袋、くつ、タオル、バンドエイド、水、ドロップ缶、カンパン)	女性	60代
まず家族から防災の意識を高めていくための行動をおこしていきたいです。	男性	50代
まず事前に情報が必要です。大雨等災害につながる場合、早目に誘導や伝達がいりまず(障害者の方達にも)	女性	50代
まず地域で大きな災害とか起きた場合、避難経路や場所がどうやって伝わるかという不安や、自分にどんなことが出来るかなど困ってる方のボランティアなど進んでやりたいと思えます。	女性	40代
もっと広報する	男性	20代
よく「大雨洪水警報」とかテレビに出ています。「またいつもの事か...」と思うのが本音です。今までも「強い台風」や「大雨注意」とテレビで言われてもこの辺はたいした事がなかったから災害の認識は甘いかもしれません。	女性	20代
ラジオ、水などを常に確保する	女性	50代
ラジオを常に聞くようにする。地域で防災訓練の徹底をしたい。	性別不明	年代不明
わが家はマンションですが災害が起きた場合ライフラインが停止することが考えられます。そのことがものすごく不安です。	女性	40代
安全、安心の為に公共事業を充実し地域の自治体との実接な連絡をする。	女性	60代
以前住んでいた家の横にみぞがあった。普段はカラカラ状態なのに大雨が降るといっばいになり、床下浸水ぎりぎり。本当に自然の力には驚いた。危険だと感じたら、万が一のそなえが必要だと思った。	男性	40代
以前住んでいた柳津町県道添いの家は裏は山前は100m先には入川があり大雨の時は山くずれの心配と配水がまに合わず道路が冠水し家の中は水浸し、夜中にいつも起きれば履物が浮いていて自転車を上にあげ、又芋を保存する穴に水がいっぱい入り朝まで片づけで大変です。大雨と満潮が重なり畳すれすれまで浸水。年に何度も被害に会いとてもイヤでした。近所の家の裏山がゴウ音とともにくずれたことがあり幸い誰もケガなくてよかったけど...何十年もつづきやっとなんかできたけど一度大雨の時、満潮と配水があふれ畳の上まで浸水しこれ以上住めないと転居	女性	60代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
井戸があるのですが昨年だったか大雨の後井戸の水があふれていました。地下にかなり大きな水路がある様な...?土地もジメジメしています。地震(大)がきたら沈下ですか?	女性	40代
一人一人が火の後始末や漏電等はないかをこまめにチェックし防災に努めることが必要である	男性	70代以上
雨量が多い時などには、川・溝にあらゆる物が流れてきてゴミが溝つまり水があふれる事があります。小さい事ですが1人1人がゴミをすてず、日ごろのそうじに心かける事が大事だと思います。	女性	50代
屋外スピーカーなどですばやい情報を提供してもらいたい。	女性	40代
音戸町は今道路工事中です(音戸第二大橋)赤い水が海に流れ込むたびに山をこんなにけずって数少ない自然をこわしてまで便利さを追求しなければならないのかと考えます。	女性	50代
何故こんなに災害が多いのだろうか?崩れ易い山すそに家を建てるからか?堤防を越えるほどの水はいったいどこから来るのか?開発しすぎた人間への警告か?	女性	40代
何事も喉もとすぎれば熱さを忘れるであっては困るので、本当は平素から意識を持つとともに備えることが必要です。とは言うもののできていないのが現状です。阪神淡路大震災の時も大変でした。	男性	40代
何年か前、私の住む地域で水害があった。しかし「自分は大丈夫」という思いが何年かすると心あり時々、水害の恐ろしさを思い出したくない人もいるかと思うが新聞、テレビから過去の様子を知りたいと思う。	女性	30代
家が倒壊するのが心配	女性	50代
家の周りの川の状態とかを普段から確認しておくようにしています。	男性	40代
家の前に瀬野川があるので雨が沢山降ったらあふれはしないか心配です	女性	60代
家の裏はあまり高くない山でテレビ塔が建っております。数年前は山を見に来られました。以後来られませんが定期的に民家の近くの視察を希望します。情報の結果も知らせて欲しいです。	女性	50代
家族全員で防災対策等を話し合いを持っている	男性	60代
家族又地域の皆と日頃から仲良くしていないといけないどこで災害がおこるか分からない先頃の気象です。	女性	50代
河川の堤防の整備も必要だと思いますが、その河川の中に土砂が堆積したり樹木が多く茂って実際の水が流れる容量が少なくなっているとおもいますので砂を取ったり木の伐採をする必要があるのではないのでしょうか?	男性	40代
過去のこと、現在はどうなっている。ということを正直に教えてほしい。	女性	60代
過去の災害事例・地域の特性をきちっと教えて欲しい	女性	50代
過去の災害事例を思い出す事、台風時の風向きによる災害、高潮時の道路冠水事例、川の増水状況、山崩れの現場等を日ごろより充分掌握しておれば予防処置は取れる何事によらず世情は目先の事に走りすぎ、各個人の危機管理認識の不足が問題私事ですが60数年前の戦時下の避難体制を未だに忘れません、不幸にも災害発生した場合、隣人を含めて地域人皆大変です、まず自分を守る基本姿勢が必要	男性	70代以上
我が家は上が崖下が崖のところ建ってます梅雨や台風のたびに心配してます常に溝の清掃また水はけの整理そして崖の異常にきおつけてます	女性	30代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
我が地域では過去S40年代大水害、平成10年代水害、地震などが身近に起っています。避難場所(水害時)は高い場所に避難する車を考えなければ、しかし道路が水につかっているだろう、その時はどうするか問題である。我が家築30年なので地震の時は安全か。公の機関が一軒ずつ調査して欲しいと思っている。	女性	50代
我が町は過去に水害で床下まで浸水した事があるので、新築の時に基礎工事を高めにし、排水管も少し太目を使用している。テレビ、ラジオの情報はしっかり聞いている。防災、減災フォーラム2006in広島へ聴講した。	女性	60代
我家のある地域は過去に実際に災害が起きており、大雨が続くと本当に不安な日を送っています。災害というのは起きてからでは遅いので防災に対する相談窓口をもっと多くの人に解りやすくしてほしいです。知らない人がいないという位の存在であってほしいと思います	女性	40代
海の側に住んでいて漁業をしております。高潮になると海外が道にあがる事があります。役所は対策等色々考えておられると思いますが土地の低い所には住まない様に心がけています	女性	50代
海や川に近い地域に住んでますので、今後異常気象などによる集中豪雨が心配です。幸いまだ被害にあってないので、どのような状況になるか想像出来ません。ハザードマップなどがあるのでしたら、是非とも一家に一冊提供して頂き、個々の家庭で防災の意識を高めおくべきだと思います。地域を何個かのエリアに分けて、エリアごとに非難場所を決め迷う事なく非難出来る様にしたら良いと思います。災害が起こってあわてない為にも、半年に1度程度は非難場所をスピーカーなどでながすか、広告や回覧板などで知らせた方が良いと思います。	女性	30代
街頭に避難場所を示した看板を立てて欲しい。	男性	30代
確かな情報が全ての人に届くように誤った情報の流出のないように。	女性	40代
学校で定期的に火災消防訓練を行なう様に学区単位でも年に数回、住民を対象に避難訓練の様なものを義務づけで行なって欲しい。	女性	50代
学校または幼稚園でスピーカーが共有できて天災を流してほしい。携帯もつながらなかった？何の役にもたたないの。	女性	40代
学校当局は台風、豪雨予報に敏感であれ鉄筋コンクリートの校舎内で居ては通学路の現状把握はできない。その上教員は車利用で弱い児童生徒の実態なしに強雨風で緊急下校決定など愚かな判断をするかと思えば小雨で“休校”など全般的はずれな対応が散られる。やはり遠距離通勤より校区間に居住する責任者が欲しい。1. 防災ダム→山間部分河川に作られた防災ダムは今土砂岩が満杯で何ら所期の目的が果せない状況である。災害復旧等にこの土砂岩を除去したものを利用させればいつも水量調節に役立つ。	男性	年代不明
蒲刈(島)に住んでいるのですが台風の時など潮があがってきて道路をふさぐ事もあります。島は海に囲まれており、山もすぐ側にあるので災害が起こると思うと不安です。防波堤もしっかりしてほしいし、蒲刈の住民にとっては橋しか交通手段がないので橋が通行止になった場合の食料品の手配など、いざとなった時ではなく自前に考慮して欲しいです。	女性	20代
緩い傾斜地に住んでおり崖崩れが心配	男性	60代
危険意識が全くないのが非常に良くない。発生しない事にはまだまだ防災など考えない。	男性	40代
危険箇所を、その区や地域住民みんな制把握しておきたい。自然(川や水)の災害がいざおこると立ち向かうのは難しい精神的ショックや疲労も大きいから地域のつながりを大切にしたいと思う(特にお年寄り)といか正確な情報が大切になってくる(パニックになるから)1人1人の自覚が大切。日頃から関心を持つ事。	女性	30代
危険個所に建築許可を制限する必要が大切	女性	60代
基本的には「我が身は、自分で守る」ことだと思います。そして、その輪を隣近所に広げて行くことだと思います。(向こう三軒両隣の精神)	男性	40代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
吉田台、高須台広島市内でも山や高台を住宅開発はやめてほしい。近年災害が多く観音台、宮島、大田川、商工センターで何度も被害が出ていて自然の力のおそろしさを身で感じています。山を団地にするのはこれ以上やめて原生林を大切にしてください。	女性	50代
宮島のように海からの浸水を予想していたところ、山からの流土石は予想外で被害大であった。	男性	60代
近所つき合い	男性	50代
近所どうしても話しをできるようなじょうきょうでたいです。	性別不明	年代不明
近所の人との、かかわりが少ないので日頃からつきあっていきたい。	女性	50代
近年各地で災害が発生していますが、身近で生命に関わる程の災害に合ったことがなく、防災意識が低い。もっと地域で小さいが数多い訓練をしていくべきだと思う。	女性	30代
近年大型台風や洪水など被害が各地で起きていったいこれは地球温暖化によるものとされるが人為的に防止するのは不可能でしょうか？	男性	60代
近隣との交わりを重視する	女性	年代不明
訓練等は半ば強制的にでも参加させるようにしたほうが良いと思います。	女性	40代
形式的(セレモニー)ではない真剣味のある防災訓練等の実施を望む。	男性	60代
広島には放水路が有るので(市内)記憶にある限り水害がないと思う。	男性	40代
広島市の大田川水系ですが堤防の内側有る為自転車のすれ違いも難かしく堤防の上にフェンスをしていただいたら私たち市民は難しい法律の事は分りませんがもう少し法律も大事かも分りませんが市民の安全の為を考えていただいたらと思います。	男性	年代不明
広島全体を考えなければいけないけれども、まずは地域が初めて、となりの家とも大事な事だと思う。老人か子供がいる家から考えないとね本当にそこまで来ている事だよ	男性	60代
行政がもっと地域住宅と協動すること。適格な情報を早く知らせる。	女性	50代
行政がもっと地域住民と協動、情報を早く知らせる。	女性	50代
行政などのアピールが少ない、もっと広報してほしい。	女性	50代
行政の旗振りで年2回防災訓練を実施することを法律で定め、各世帯からの出席を義務付け、欠席者にはペナルティを出席者は1世帯1000円程度の物品を提供する。	男性	70代以上
行政への連絡方法の徹底化、現役中から5WIH法...又...KYT(危険予知)なにかにつけて反復訓練が必要だと思います...避難場所にしろ...ここに行くまで...危い所は無いか...家内と二人で足を運んでいます...健康と同じように自分の身体は自分で守る...それしかないのでは...誰だってパニック状態...リーダーの育成も大事...	男性	60代
国や県市町に頼るばかりでなく、一人一人小さな事でも意識して日頃から準備しておくことが大切だと思います	女性	30代
国や自治体にもしっかり防災対策を行って欲しいと思いますが、最近のように災害が多くどこで起こるか予想がつかない事があるとしたら1人1人が自分の事は自分で守るしかないと思います。何を用意してどこに逃げるか位は常に家族で話し合っておくべき事だと考えています。	女性	50代
国県市町の事前対策の充実	男性	30代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
今、共同住宅(マンション)に住んでいます。地域住民との連携をはかりたい。	男性	年代不明
今までコーポに住んでいて地域、自治会ともつながりも全くなかったが1軒屋に引越して近所での交流も多く年1回防災の避難訓練もあって防災への取り組み対策がよくなされているのが感じられ安心した。是非今後も参加したい。	女性	30代
今までに何かの災害があった所の再点検、あきらかに危険と感じた所の調査をていねいにして防災減災に努めたらと思います。	女性	50代
今住んでいるところは裏が山で土砂崩れの可能性もあると心配しています。小さい子供がいるのでいざという時すぐに身動きがとれないかもしれません。地域グルミの助け合い救出活動または自宅訪問による情報伝達が活発になれば嬉しいです。	女性	30代
今年6月24日の雨が夜中より降り出し、毎朝息子が通勤している国道に土砂くずれが起き全国通行止になりました。日頃何気なく通っている道。今考えるとぞっとします。その現場を通して見て大幅に青いシートが張りめぐらせてありました。	女性	40代
最近の現状より考えてみても「自助・共助・公助」という言葉をもっと多くに知ってもらい、地域だけでなく国という大きい範囲をもって考えていくべきだと思いました。	女性	30代
最近の洪水や土砂災害などの発生率は本当に異常な程多いですね。地球の温暖化が特に原因なのではないかな～と思います。身近で災害が起きていないので我が家は防災意識が低いですね。災害は人事ではなくいつどこで起きるか分からないので日頃からの防災・減災意識がとても大切だと改めて考えさせられました。我が家では自助・共助は連携していけると思っていますが、公助がどこまで対応してくれるのかとても心配ですね。何年か前に洪水がおきた時に市が市民に連絡するのが遅すぎて何人かの方が犠牲になりましたよね。	女性	30代
最近はおこる想定をしていない災害が起きているので何があっても数日は生きていられるようなモノ(食料や水それ以外のものも含め)をそろえておく方がいいと思う。	女性	30代
最近引っ越したため、今住んでいる地域の危険箇所や避難所などまだ把握していません。この機会に調べたいと思います。近所の人とつき合いがない人いると思うのでそこに住む時点でパンフレットをもらえるなど工夫があれば良いと思います。	女性	30代
最新の情報をより早く、解かりやすく伝えてほしい。防災用語は専門用語で分かりにくい事があると思います。(水位)	女性	40代
災害がおこる前に、日常生活に気を配り注意して、キケンな場所を見つけることは必要だと思います。自分の身は自分で守る心掛けも大切ではないでしょうか。	女性	30代
災害が起こる可能性のある場所かつて災害が起こった所について、たてかん板、たて札で表示してほしいです。	女性	40代
災害が起るとたいい交通機関がマヒするので、また不自由な生活をおくることになるので、日頃から健康管理・体力維持向上が必要に思えます。また、現在は地域が昔に比べ薄いので、もっと積極的に濃い地域が必要ではないかと思えます。	女性	30代
災害が自分の周りで起きるなんて考えてもいませんでした。特に住んでいる瀬戸内海は台風も地震も来ないと聞いていましたが、今は地震に対しても不安な気持ちでいっぱいです。	男性	50代
災害が自分の周りで起きるなんて考えてもいませんでした。特に住んでいる瀬戸内地方は台風も地震も縁がないと聞いていましたが、今は地震に対しても不安な気持ちでいっぱいです。	女性	50代
災害が予測される場所(ヶ所)を平常時に把握し、予防対策をすべきである。災害が起きて災害復旧をされるが先手を打つ方を検討されたい。	男性	60代
災害にあった場合、どこに相談に行けば良いか、わかるようにしてほしい！！	女性	40代
災害に関してどのような備えをしておいたらよいのか災害に備えるための情報はどこで入手したらよいのかが分からない。	女性	30代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
災害はめったに起こらないので起こった時にはパニックになって大変だろうなあ...とも思う。	女性	30代
災害は急に起きるかもしれないので、ラジオ等ですぐ情報を入手できる様にしたい。	男性	20代
災害時に於ける情報をより速く正確に収集し的確に判断する心の準備を常日頃からの意識を持つ様心掛けたい。	男性	60代
災害時の避難場所の備品等の確認は、利用する時には素早く対応できるようにしておいてほしい。また、いつ避難するか時期の見極めが大切だと思います。	女性	30代
災害発生時の県レベルの対応にバラツキがあることが気になります。	男性	50代
細い道路に不造作に置きばなしの自転車やバイク(原付)消防車が入れないようにダンボール等いっぱい家の裏や路に放置。川へゴミをいっぱい平気で投げずてる。とても残念です。草刈り等こまめにやりたい。小さな川ほど皆が気をつけたい。	男性	30代
昨年9/6の台風14号で、住んでいるマンションの1Fが水につかった。主人がたまたま仕事(太田川の流量観測)で家をあけたので我が家は無事だったが、よその車はほとんどが翌日JAFのお世話になって新車に変わってしまった。その時私はお腹の子供が8か月だった。死ぬかと思った。国と市が連携をはかって、情報を伝達して欲しい。	性別不明	年代不明
昨年九月の台風14号の集中豪雨が広島に大きな被害をもたらしました。自然のこわさをまざまざと知らされました。やはり日頃から地域防災の重要性を感じました。日々のコミュニケーションを大事にし、防災訓練の重要性を必要と思いました。やはり情報源は、ラジオですね。いつも身近に置いています。	性別不明	年代不明
山、高速道路の崩れ等が最近近くでもあるので気になります。	男性	60代
山からの雨の量が鉄砲水のように流されました。何十年前亡くなられた方が沢山ありました。	女性	年代不明
山の岩とかの点検を出来る限り自分で見てみる事	男性	40代
子供や老人等の移動避難手段(病人等)家の裏は1級河川芦田川なので自然の恵を有難く思うと共に少々心配もしております。	女性	70代以上
市政便りの情報等が役立つと思う。	女性	60代
市民が不安に思う場所等連絡すれば、防災・危険度等説明してもらえれば行政であれば安心できます。少し前ですが水道管がもれ水が絶えず流れているのを行政に連絡しているにもかかわらず、長い間その状態でした。何かあってからでは遅いのです。	女性	60代
私が住む地域は水害が想定されるため非常に関心を持っていますが、その地域への過去の災害例や想定される被害に付いて、役所や消防、警察等から住民へ説明会等を1年間に1回は持つべきと思います。この場合町内会を経由しての連絡は好ましくありません。何故なら過去の例を知らない新しい住民に町内会未加入者が多いからです。それにマンションなどの住民を中心にめまぐるしく住民が入れ替わっています。災害発生時は地域住民の協力が不可欠と思います、従って住民全員の情報の共有化が是非とも必要と考えます。	男性	60代
私が住んでいる所は広島の江波と言う所で一番海沿いです。大雨が降るといつも決まった所場が水に漬ってしまいます。膝下位なのですが...土地が低いのでしょうか。でも何年、何十年も今のままです。町内会など小さな地域の取り組みだけでは何の改善もできないのでしょうか...。年に1、2回位なのでそのままなのでしょうか。不安になります。大雨になると。	女性	40代
私の家(実家)は島の海岸線にあるんですが、いつも台風がくると玄関先ギリギリまで潮水でつかります。近所の人達も大変困っているのに堤防を高く作ってもらう旨を町の役場に申し出ているんですが私が知ってる限り、もう6年も何の対応もされていません。危険な場所への防災の対応をもっと早く欲しい！！って毎年のごとく思っています。	性別不明	年代不明

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
私の住んでいる家の周辺では護岸整備がされていない為、毎年台風の時期には高潮で床下浸水が当たり前ようになっており、台風シーズンの7月から9月までは1階の畳を常に上げている状態で安心して生活ができない状態です。昨年の台風の時、もう数センチで床上でした。台風以外でも大潮の時期には床下浸水をします。毎年海面が上昇している現状ですから一刻も速い整備を願っています。地方行政では護岸整備など予算やそのほかの理由でなかなか取り組んでもらえないのが現状です。少しでも速く被害のでている地域の災害対策に取り組んでほしいと思	男性	60代
私の住んでいる地域は非常に災害の少い場所です約60年ニュースを聞いた事が内いもので水害時にどの様に行動したら良いか又、防災をどうするか話題すらありません。緊迫感すら内いのでどう取り組みれば良いか？全然分かりません。	女性	50代
私の住んでる所は過去に水害があったり、親戚の所でも川の水があふれ被害にあったりで災害に対する意識や備えはある方だと思います。でも今出来る災害の備えとして食料、レトルトや水など用意する事はしていても実際、とんでもない災害にあっってしまったは何も出来ないだろうと思います。何かあった時助けたり助けられたりする為にも日頃からの良い人間関係が大切なんだと思います。	女性	20代
私の住んでる地域は気候もよく台風などもめったに来ないし地震もたまにしかない為災害が予測しにくい。周りの人もきっとこんな意識だろうと思う。次は我が身！という危機感がないのです(私だけかも?)。火事の避難訓練は小学校でも聞いた事があるけど「災害の場合」というのはないような...知らないだけかも?	女性	30代
私の小さいときは(田舎)、町内会掃除で、梅雨前は特に溝掃除を丁寧にしていました。現在住んでる所はマンションが多くなり、町内掃除も地元のお年よりだけで神社などで、他をする人がほとんどいなくて、家の周りを掃きそうじする人が少ないです。(つまり落ち葉など溝をつまらせて、役目がはたせない地域の情報交換がない)開発許可もよく見当して下してほしいです。道路も地下にしみこむものなど、あるらしいので、役に立つ公共事業をしてほしいです。	女性	40代
私の地域は前に土砂災害にあったので堤防が上にでき、もうこないと安心してます。その時は地域の人がみんな助け合って行動していたので、何かがあっても、どの地域でも助け合いができるんじゃないかなと感じました。	女性	20代
私の地域は年寄りの方が多く災害経験者が少ないのでいざという時に対処できるのか心配です。	女性	40代
私の地域も過去・水害がおきて亡くなった人がいると聞いてます。近くの小さな川も大雨の時にはそばを通るのが怖いです。水害はおきてしまえば大きな事故になるので、充分気をつけなければと思っています。地域の情報をしっかりとつかまなければと思っています。	男性	40代
私は、広島市内に住んでいますが、自宅の前に大きな川、大田川があり、すぐ近くに大田川放水路・水門があり、大雨時には、防災無線放送が一番効果があります。	男性	50代
私は5つを上げたが全て使える情報伝達の手段は使った方がいいと思う。防災マップを見る機会があったがそれまで我が家のある地域が土砂災害の危険地域とは知らなかった。びっくりした。他にも知らない人がいるので自分でも周囲の人に話してゆきたいしマップを見る様すすめたいと思う。子供の通う高校への足として国鉄(JR)を利用して2回線路で2回陥没があったと新聞やTVで知った。陥没や土砂くずれは今大丈夫であったも次の瞬間に起こるかも知れないので本当に怖い。危険箇所を知る、点検、通報、周知、対処を徹底しなければいけないと思う。	女性	40代
私は郡市の境に住んでいるのですが、防災等の取り組みが市毎、郡毎に行なわれていて実体にあってません。もっと広域的に柔軟にやってほしいものです。	男性	40代
私は難聴で電話等出来ないのが局地的な集中豪雨等が発生した場合どのようにして情報を知る事が可能か大いに不安がある。	男性	60代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
私も3才の時近くの川が壊れ、祖父に追われて近くの高校に避難し、その後家の片づけが大変だった事を記憶しています。川の設備強化や防災放送をしっかりとしてほしいです。	女性	40代
時々各地の防災情報や災害のあった地区で助かった方法やこれはよかった事等の情報を回覧板に載せて配布する。	男性	50代
時々訓練が必要と思います。地球温暖化で異常気象となり考えられない事項が起きる...研究も必要かと思います..."皆で関心をもとう防災に"	女性	50代
時々地域で防災訓練をすればよいと思う。防災場所を日頃広報にのせる事。日頃常時にそなえて色々準備しておく事。	女性	年代不明
自治会の役員になると災害時の担当が割り振られて自然に色んな情報が身につけて行く。	女性	50代
自助、共助、公助	男性	60代
自然→環境(=ECO)意識改革が必要。医療→情報、医療機関の充実。近所づき合いを大切にしたい。	女性	30代
自然の力を見くびってはいけないと痛感している。公立学校に勤めているが、学校の門に災害時の地域の避難場所と表示してはあるにもかかわらず、災害時の対応など検討されたこともないし、対応マニュアルなど見たこともない。これでいいのかと特に台風時期には心配になる。地震があっても特に職員の呼集があるわけでもなく、管理職もいつもと同じような時間に出勤するのは理解に苦しむ。	男性	50代
自然災害がおこる前にまだまだキケン場所はたくさんあると思います。小さい子供をもつ親として安心して川の近くに遊びにいけるよう、もうすこし市の方がこまかく取り組んでくださることをのぞみます。	男性	40代
自然災害は事前に防ぐ事が出来ないので逃げ方を平常から考える様にしている。火事には気をつけるようにしている	女性	40代
自宅の川むこうが小学校(避難場所)となっているが橋が流されてはいけなかったが数年前、橋の架け替えが終り一安心しています。	男性	50代
自宅は、川や山から離れていることもあって風水害にはほとんど縁がなかったが最近多発している大雨や台風・水害を考えると防災について考えなければならない時が来ていることを改めて感じた。	男性	70代以上
自分で気をつけていても、いっどこからどうなるかわからないので、慎重に對しよできる様にしたいと思う。	女性	50代
自分には起こりえないと思っている災害...でも雨が続いたりすると、以前田んぼだったうちのアパートも少し心配です。避難場所を確認しようと思います。	女性	30代
自分の住んでいる地域でどのような災害がおこりうのか、また過去に起った事例をとりあげ新聞で特集をくみ県内地域全体で情報を把握できるようにしたい。	女性	30代
自分の所は安心といつも思っているのも万が一の事も考えとかないといけなくとも思いません	女性	40代
自分を含めて一般では危機感がなく「ここは大丈夫」と安易に考えている。防災に感ずる報道を増すべきだ。	男性	40代
実家は海のすぐそばで高潮が一番心配です。市の対応が遅く、何の対策もせずこまった事がありました。早目早目に情報を知り、見て見ぬふりはこまる。	男性	40代
実家は少し山際にあるせいか、町内会や回覧などで災害の時のしおりや防災訓練などありますが、今の自宅はマンションなので、町内会のようなものも防災訓練もなく、いざとなったら少し不安があります。	女性	30代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
集中的な雨で河川が氾濫し大量の水が堤防を越えて低い所にある家にまで多くの被害を与え浸水した家が何十件もあった。大きな台風でも大丈夫な位の堤防を築いて欲しいです。	女性	30代
小さい事なのですが、川と水位が近い道路では大雨の時、通行止めの表示がでますが、表示がでてても車が通れたりして、どこまで信用していいのか考えてしまいます。道路わきの溝は大雨の時あふれて道と一体化してしまい、なにか目印があれば...と思います。	女性	40代
小さい川だが氾濫が怖いので雨量の確認を常に心がけている。	男性	60代
小学校や公談館が避難場所になるケースが多いから地域にアピールすべきだ。	男性	20代
小学生の時土砂災害(岩国市)に合い自宅が土砂でいっぱいになり、目前でのおおあさんの死亡、梅雨の季節になると不安でいっぱいです。川がにごりどこかくずれ始めているのではないかと眠れぬ夜を何度過したことが。現在、瀬野川の近くで川幅が広く安心です。地球環境・災害問題のスペシャリスト達の養成、取り組みを強く望んでいます。ありがとうございました。	女性	50代
少し低地に住んでいるので川の増水がこわいです。避難しなければならない時は早急な連絡が欲しい。	女性	60代
消防士、急救士の方だけでなく、地域ごとに防災チームを組み、災害が起こった時少しでも被害を少なくできるようにしたら良いと思う。	女性	20代
上記の屋外スピーカーが必要と思う	男性	70代以上
常日頃から防災意識を高めること。また、年数回地域の町内会単位で防災訓練を実施する必要があると思う。	男性	50代
常日頃より地域の取り組みが出来る防災委員の様な型を作る	女性	50代
情報がもっと多く欲しいです。	男性	30代
情報の共有化(町内の掲示板の活用を計る)	男性	50代
情報の手段を自由から住民が知っておく事が大切だと思います。	女性	40代
情報を素早く市民に知らせる共に、適格な判断の上素早く避難等をさす指示伝達が最も必要である。	男性	60代
情報を早く伝える方法を、考えてほしい	男性	40代
情報収集	女性	40代
食料の備え	男性	40代
新たに移転してきた住民にとっては過去の災害事例がはっきりと把握できていないケースが多いと思う。水害をはじめ、災害については数年おきに繰り返されるケースも多いので地域住民が対策を立てやすいように情報提供する機関や組織があれば効果が上がるのではと考える。	男性	30代
森を育てる。地下へ水を、しみこませるなど一度に川へ水を流さない方法が大切。	男性	30代
森林お手入れが必要ではないか。市もしくは区単位の防災訓練。災害時どの様な対応したらいいのか、県・市から具体的な情報がないので不安である。避難場所になっている小学校が目の前が川なので2次、3次の避難場所が判らない。	女性	30代
水害が起きた場合の地域での対策を話し合う必要性を伝える。	女性	40代
水害で広島といえば1999/9. 29の事その時もまさか広島でという意外でびっくりしたが自分の地域は大丈夫という意識がある今回の記事で気を付けようと思った。	女性	30代
声をかけ合う事がとても大切になって来てます。1言でもかけ合い顔見知りになっておきましょう、お互いに。	女性	50代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
昔は優しかった自然が最近では暴れるとも家える今日、テレビを見て心が痛みます。異常な洪水や土砂災害を防ぐには昔にもどる努力をしなければ大変な事になる恐怖感を覚えます。便利や営利を目的として山を切崩し快楽を求めてエネルギーを使い過えています。自然を取りもどす為にはまずは私からとしくにも満せませんが水も電気も節約し小さな努力を毎日続けております。そして町内から市政へと輪が広がれば良いのですが…。ハザードマップは不要と思いたいのですが大雨の度に明日は我身と痛感しております。	女性	50代
昔ほど隣組が強くなくもっと地域で定期的に訓練なり学習をして親しくなるべきである。	女性	60代
先人の知恵によって命名された過去の地名を再検討し、自分の住んでいる地域の地形・地質等自然条件を熟知することが寛容である。	男性	60代
専門家に危険場所を指摘してほしい。	男性	60代
川が近いので大雨が氾濫したら怖いですね	女性	30代
川にはゴミも沢山底に堆積していると思うのでそれを除去し水の流れをスムーズにする。	女性	40代
川に土や石などがたまり河原が出来ているのが気になります。それを取り除いていくのをしていたら少しは違うのではないかと思います。そうすれば河原に木を切ったのとか草とかゴミを持って行って焼く事が出来ないの川をよごす事もなくなり川が浅くならなくてすみ、洪水も減るのではいつも思っています。	女性	50代
川のはんらんを防ぐ処置	女性	60代
川の中の草をかること。	男性	20代
川の傍に住んでいます。どのくらい増水したら危険なのか知りたいです。	女性	40代
川へのゴミ投棄が多い、近くに行とおどろく。地域で年1回のゴミ収集に参加はしてるが多いのにおどろきます。日1日考えて生活すれば良いと思うが新聞テレビ等で見た時のみで大変だと感じる。比較的、災害の少ない地域に住んでいる為日々安心？して生活してるが事あるごとに自分の事として考えなくては？の思いはある。避難場所は知っているがその時行かれるか？どうか心配。防災無線はあるが余り良く聞えない。ゆっくりハッキリした口調？で	女性	50代
川沿いに住んでいるので二年前の台風での浸水に遭いました。我が家の車はぎりぎり大丈夫だったのですが、台風の前日から最寄の公共施設の校庭などを開放して車の非難スペースにできるよう連携して欲しいです	女性	30代
前もって放送があればいいですね。港でたすけあいの気持ちを持って声を掛けあい元気でいたいです。	男性	60代
早目に予測し、早目に情報を流すことが人の命をどれだけ救うことができるのか…山や川、市の職員がまめに点検することも必要であると思う。梅雨時期水が多くなり、危険な場所はまだまだ多々あると思う。小さい子供の命をまもることも必要であるのではないのでしょうか？	女性	30代
台風がひどいときに川が氾濫しそうだったので、いち早く防災の車が地域を回って、非難場所を教えてまわってました。実際氾濫までいたらなかったのですが、早め早めの対処はやはり大切ですね。	男性	20代
大きな災害を経験した事のない人がほとんどだと思うので、パニック状態になった時を思うととても恐いです。取り組みとしては回覧板などでの災害時対策、又学校の授業で様々な防災・減災対策・災害の種類・威力についての知識を植え付ける事と考えます。	女性	20代
大雨のあった後、崖等の小さい亀裂が出来ていれればすぐ補修して頂ける行政対応が必要だと思います。そして皆が地域の避難場所を常日頃から知っておく事が大切だと思います。	女性	50代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
団地に住んでいるのですが、山の上に有る為、2本の道路が災害になると、どうしようもありません。6. 29災害の時、2時間余り、そう言う状況になりとても心配でした。道路整備も早急にしてほしいです。	女性	50代
地域が一体となって取り組むべきだと思う。去年の夏、防災訓練に参加したんですが、とても有意義でした。	女性	50代
地域でとりくむ	女性	40代
地域での防災訓練、日頃からの連帯感をもって話し合い、行動する。「災害は忘れた頃にやってくる」を肝に命じて行動したいものです。下水の掃除も大切と思う。	女性	60代
地域で防災訓練を大規模にやりますが、参加者が少ないのにおどろいています。(私達は家族で参加し、とても良かったと思いました。)減災という言葉も実感があって良い。	女性	50代
地域のコミュニケーションを図る為の手段。特に団地等に対しては合衆国みたいなもので隣り近所の会話が少なく、その為には色々な趣味「ゲートボール」「グランドゴルフ」等で月に1回程度防災の知識を話し合うよう習慣化する	男性	年代不明
地域の協力・助け合いH16年に、台風で災害をうけました。その時、とても大変でした。	女性	40代
地域の協力が大切であると思います	男性	40代
地域の協力が必要です。	男性	40代
地域の助け合いがないと防災対策は出来ないと思う	男性	40代
地域の人との関わり、助け合いが必要で地方自治体の協力が課題だと思う。	女性	20代
地域の人達との日頃のつながり	男性	60代
地域の数箇所に避難場所の掲示を(たとえば電柱に)もっと分かりやすいところにしてほしい。	女性	50代
地域の大学が講座に防災を取り上げており、それに参加して教授・学生と一緒に地域での防災に関する取り組みをしています。問題点は地域住民の防災意識の低さで、その向上・推進が最重要課題です。また、高齢者等に対してのユニバーサルな避難・誘導等も、これからの防災で考えていく必要があります。	男性	60代
地域の放送を早くしてほしいと思います。	女性	60代
地域の方とのコミュニケーション	女性	50代
地域の防災訓練といえば、一度の参加者の数は限られるから、いつも特定の人が参加しているというのが全国的な状況ではないかと思われる。できるだけ多くの人に訓練の機会が与えられるような、よい方法はないものでしょうか。	男性	70代以上
地域の防災情報を把握しておく。危険な場所・海や川には近づかない。排水・下水溝はきれいに掃除しておく。	女性	50代
地域の連絡を深めていく	女性	年代不明
地域住民全員が、町内会(自治会)には必ず加入してもらいたい。	男性	70代以上
地域防災対策にしたいが、防災訓練に積極的に参加して、近所の皆さんと助け合っていきたい。	男性	70代以上
地区の訓練が一年に一回ないし二回位はあります。一度大規模な訓練をしましたが、その時本当に災害があるとこんなんだな～と痛感しました。ヘリコプター、たきだし、自分達の町内はどこに集まるか?やはり実際に体験しないとわからないことが多く、これが訓練なんだと思えば参加しなくてはいけないと思いました。費用がたくさんいることなのでたびたびは出来ないと思いますが必要だと感じました。	女性	50代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
地元住民がまず地域の現状を知り、関心を高め日頃から連絡や交流を深めてゆくことが大切だと思う。又定期的に防災センター講演会などに参加、見学をして認識を持つ	女性	60代
中国地方の海辺に面する食品工場(コンビニ弁当やデザート製造をしているらしい)は前回の洪水で営業不能になってしまったを教訓に工場前に長い堤防をつくつたらしい。自然の威力にはかなわないし、皆が皆防壁を作れるゆとりがあるわけでない。出来ればリスクの少ない地へ移り住めれば良いのですが...所有する土地にこだわって無理な基礎工事を施さないのも大切だと思います。	女性	年代不明
町内会単位で避難場所や経路、緊急時の問い合わせ先を一覧にした公報を各家庭に配布してもらいたい。	男性	60代
町民の連帯を密にし事前に対処する	男性	年代不明
停電ということが多々あるので防災無線や屋外スピーカーで細かに情報を出して欲しいです。	女性	50代
天気予報やニュースを通して、気象情報に敏感になること。荒天が予想される場合は、外出しない又は仕事を早めに切り上げ、今後予想される展開に気を配ること。屋外のチェックや家族の居場所、最低限の避難セットの準備をする。場合によっては、役場に問い合わせたり町内放送の聞き取りを欠かさないようにする。	男性	30代
天災は万全というものはないと思うので、いま出来る事はしとくのが一番大事だと思います。	男性	30代
土砂くずれ、不動産の土地を持っている人に対して対話が出来ないの困っている向合って聞いてもらえない。	女性	年代不明
土砂災害の地域の工事が一年以上たっても終わっていないところがあるので大雨が降るたびにこわいです。(主に河川、道路)	女性	40代
当地区は高齢者が多いので、最悪の場合指定場所へ避難するしかないと思っています。	男性	70代以上
道がくずれているところは、早目に修復してほしい	女性	30代
道の切れつ水の流れの悪い所は一度見直してほしい	女性	50代
道路など私達には工事について解らない事ですが2月～3月にかけて余り痛んでいない所を掘り返したりしていますが見ただけで危険な所は一杯あるのでどうしてその方を優先しないのか不思議です。	女性	60代
日頃から、そういう場所の確認をする事。会合等の時再々常日頃防災について話して頭に自然に入る様にしてほしい。	女性	60代
日頃からの呼びかけを大事にしてもらいたいです。	女性	30代
日頃から気に掛かっている事なのに実際は何も対策しておらずこの際何かアクションを起こさねばと考えています。	男性	60代
日頃から災害について関心を持ち防災情報や地域講習があれば自主的参加をする事だと思います。	女性	50代
日頃から準備をしておき家族の連絡のとり方を決める	女性	40代
日頃から地域で防災訓練を行うべきだと思う。もっと自然を大切にすべき。	女性	30代
日頃から防災についてはあまり考えてませんが避難場所だけは家族で決めてます。	女性	年代不明
梅雨や台風など災害が発生する頻度の多い季節の前に、町単位で防災訓練をするのを習慣づけて、いざという時に自然に対応できるようになればいいと思う。	女性	50代
梅雨時に、少しの雨がふっても滝の様に流れる、小さな川(とぶかわ)を見ていると街づくりの時点でもう少し考えてもらえればと思う事がありました。	女性	30代

防災・減災に関するアンケート調査

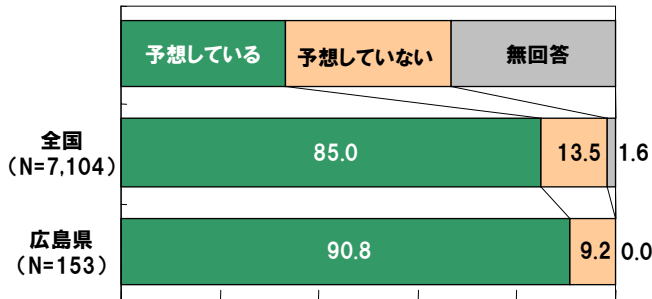
自由意見	性別	年代
避難場所と避難経路の情報が、日頃から、知りたいです。	女性	40代
避難場所の周知	男性	30代
避難場所はわかっているけどそこに行くまでの道がどこを通れば安全なのかはわかりません避難するときは何を持って出たらいいのか知りたい	女性	40代
避難場所は知っているのですが、いつ頃どんな状態になったら行った方がいいのかわかりません。1人での時や小さい子供を連れている時は不安です。	女性	50代
尾道市の島しょ部に住んでいるが、訓練の経験は全く無い	男性	60代
病人の避難誘導と病院の確保	男性	60代
普段から防災、減災意識を高める事が大切だと思いました。	女性	60代
普段から防災・減災意識を高めていくことが大切だと思います。	男性	30代
風水害や土砂災害すごくこわいです。日頃の備えが大切ですネ。避難場所を確認しておきました。	男性	50代
平成11年6月に集中豪雨があり、家から直線で300メートル山手で発生した土石流により数人の方が亡くなりました。しかしながら自治体から出た指示は、『非難勧告』で『命令』ではありませんでした。『勧告』と『命令』の意味もわからず具体的にどのような『危険』な状況なのか理解できませんでした。また、指示があったのは土石流が発生してから数時間後でその指示に意味があったのか今でも疑問です。幸い家には大した被害はなかったのですが、『非難勧告』が出るのが非常に遅く、防災放送も聞こえない状況で不安でした。必要な情報を、早く、	女性	30代
平地なのですが海より低いので高潮(台風)が心配です。全住民の避難訓練を一度してみたいと思います。持ち出しの物とか時間とか調べたらいいと思う	女性	50代
平地に住んでいる時は豪雨が降っても余り気にしていなかったが山を切り開いた新興番宅で100m程の所に山麓があり大規模の山津波がもし発生したら押し流され(平地まで)(避難所共々)るのではと豪雨が降る毎に気になります。町内はどう考えているのかなあ～	女性	60代
防災、減災について地域での説明会。被災時の適切なアドバイス(費用方法等)	男性	60代
防災、減災のために地域が団結して情報交換や日頃のつきあいをよくして家庭でも何かあったときに緊急にそなえられるように日頃から話し合っただけでいいと思います。	女性	40代
防災・減災で日頃思う事。休耕田の活用、山の手入れ植林。川土手にソーラー対応の街灯設置。	女性	30代
防災グッズ購入の補助などを行って欲しい。	男性	30代
防災に関しての取り組みは日ごろからの備えがとても大切だと思います。しかし、実際体験したことがないことなので取り組みの甘さがあると思います。	男性	10代以下
防災に対する情報や知識等を、しらせる事を主旨としたお祭(イベント)などをもっとしていただけると子供も一緒にとりくめて良いと思う。	性別不明	年代不明
防災は自分の住んでいる地域に被害がおこり身にしみて体験しないとなかなか行動がおこしにくいと感じています。いわゆるテレビ等で見ていると人事なんです、自分とこは大丈夫だと思ってしまう、何んの根拠もないのにそう思ってしまう、やはり大雨等が降り出したらテレビなどで地域の情報を見て避難先の事を考えその次は何の行動をしたらよいかこの時季にあらためて考えさせられました。職場から以前もらった防災袋の位置と中味を点検しました、今はそれくらいのことしかできませんでした。	女性	50代
防災は良いが、無駄なお金は使わないようにしたいものです。	男性	50代
防災や減災に関する定期的な情報交換の会を町内会単位で行っていききたい。	男性	70代以上

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
防災訓練を2・3年前地域の大掃除の時したきり。せめて年に1度の大掃除の後、防災訓練が有ると良い。その後の懇親会の時、ただワイワイ話だけでなく、防災についての話があれれば良い。とにかく地域の集まりがある時には、防災についての議題をもうけて地域ぐるみで、話し合っておく必要があると思う。	女性	60代
防災対策の大切さを、よくわかっています。県や市での対策とともに自然のコトですが、集落自治でしっかり対策をとりたいですネ。	女性	20代
防災対策を何もしていないので日頃から考えていくようにしないといけないと思います。	女性	50代
地域の連携	男性	40代
大雨がよく降って、梅雨明けている。台風3号へやって来ている。	女性	30代
避難場所。家族との連絡。	女性	50代
避難場所。簡単な持ち物。	女性	70代以上
大雨が降った時、水が流れる場所を作ってほしい。	女性	50代
地域の連絡をキッチリとしておく、向う三軒両どなり方式で...	男性	60代
防災網の整備、衆知	男性	70代以上
防波堤をしっかりみなおして欲しいです。家にはラジオがないのでやはり備えておきたいですね。	女性	30代
予想雨量に対して川の水位がこの程度上昇するというような基本的な情報を身近に知っておくべきだと思う。	女性	30代
予想外の大雨などで川の水位があがり自主避難する場合、すぐに受け入れてもらえるものなのか？子供がいるととっさにできるものか不安に思う。	女性	30代
裏山の状況調査に来られたようだが、その調査結果を詳しく知りたい。	男性	50代
隣・近所の協力など、自治体などの情報。	男性	20代
隣り近所で声をかけあい助け合う事が大切	女性	50代
隣近所、身近に居る人と助け合う	女性	60代
例えばがけの上や下に家を建てる事を許可すること事態が不思議。危険だとわかっている場所に建物を建てることを行政が規制したら良いと思う。	女性	30代

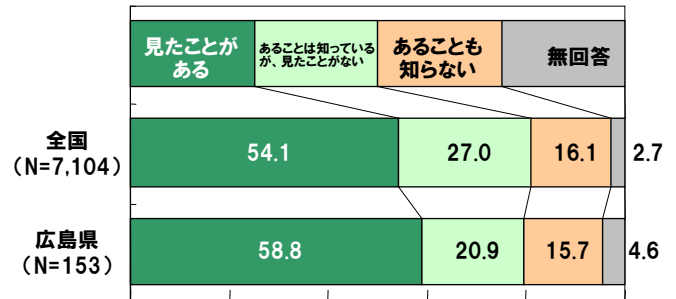
会場アンケート
(設問・背景・アンケート結果)

Q1. あなたの地域で、水害が起こりうると予想していますか。



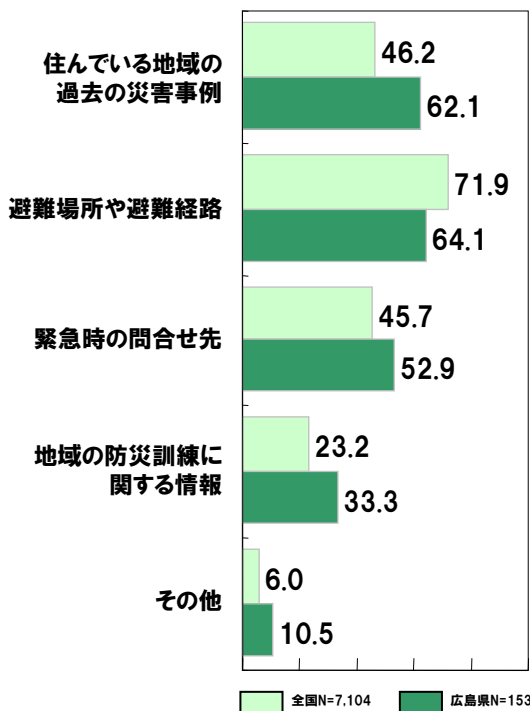
「予想している」が、紙面アンケートに比べ6.1高く、9割を超えている。フォーラム参加者の危機意識の高さがうかがえる

Q3. あなたは地域のハザードマップを見たことがありますか。



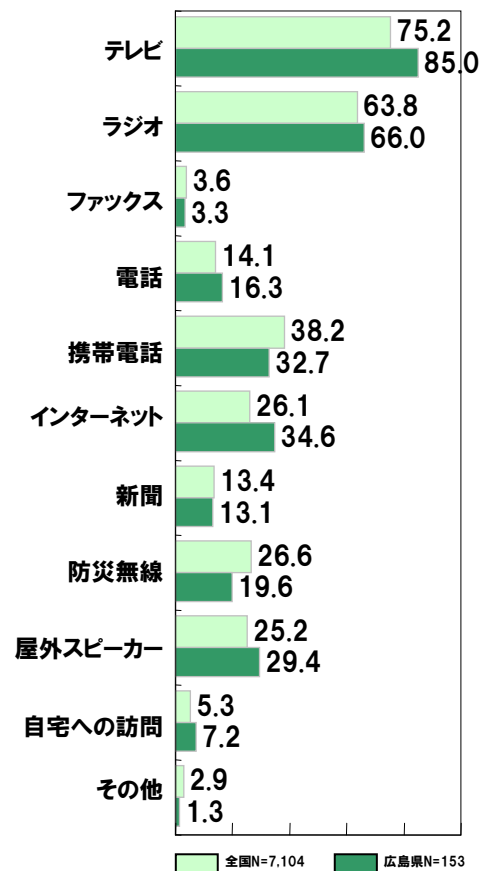
特に「見たことがある」では、紙面アンケートに比べ22.4も高く、参加者の方はソフト面(自助)でも災害対策の意識が高い。

Q2. 日頃から災害に備えるために知っておきたい情報は何ですか。



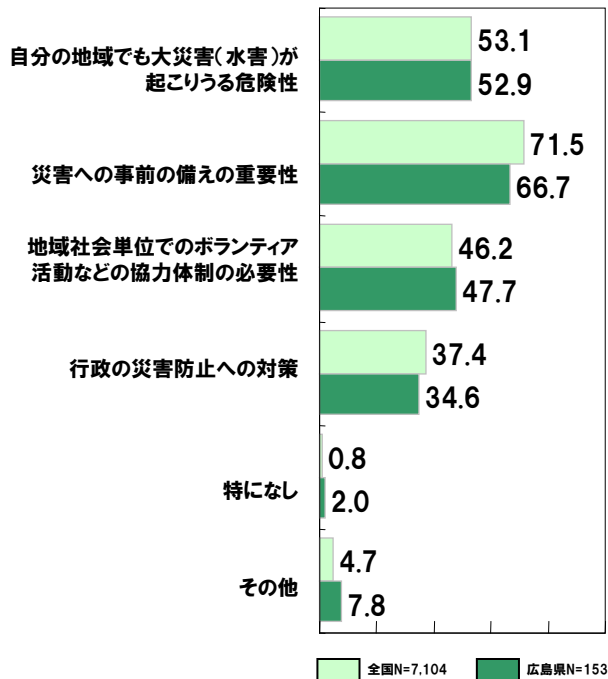
「避難場所や避難経路」が64.1と最も高いのは紙面アンケートと同じだが、過去の災害事例が20.3%紙面アンケートより高く、DVDの内容が来場者に強い影響を与えたと思われる。また、地域の防災訓練に関する情報が11.1%高く、自助・共助への積極性が来場者の方が高いことが伺える。

Q4. 水害が起こった時はどのような方法で情報を入手したいですか。



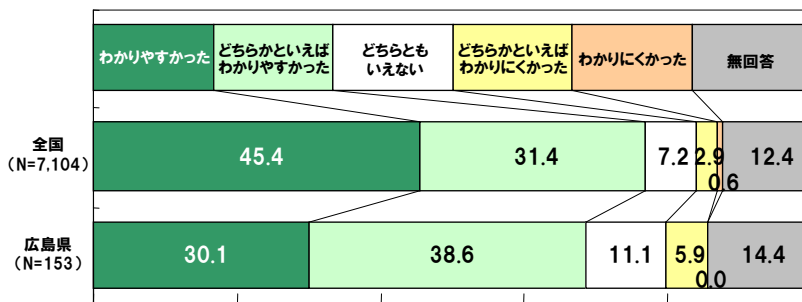
会場アンケートでは、紙面アンケートに比べ「インターネット」で18.9も高く、TVも10.6%高くなっている。パネリストが、TV、インターネットで情報提供していることを訴えたことが、大きく影響したと思われる。

Q5. 本日フォーラムに参加されて、どのようなことを感じましたか。



フォーラム参加者は、紙面アンケート回答者に比べ、災害への危機意識が高いうえ、「災害への事前の備えの重要性」や「地域社会単位での協力体制の必要性」など、自助・共助・公助の重要性を認識している

Q6. 今回のフォーラムの内容はいかがでしたでしょうか。



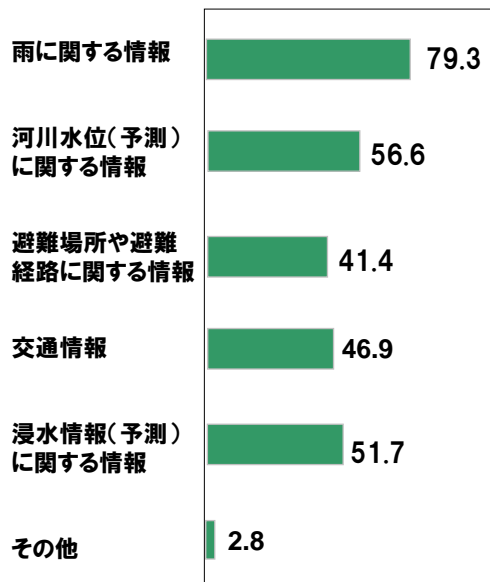
フォーラムのわかりやすさは、「わかりやすかった」「どちらかといえばわかりやすかった」を合わせ、68.7で、約7割の方が評価している。一方、わかりにくかった理由として、資料があった方が良いと言われている。基調講演を含め、手元資料が欲しいと要望。

Q6. Q6で、「わかりにくかった」「どちらかというわかりにくかった」を選んだ方の自由記入 計8件・・・P35

Q7. このフォーラムに参加してあなたが感じたことや、防災・減災に関する地域の取り組みを進めていく上での課題など、どのようなことでも構いませんのでお聞かせください。(自由記入)・・・P35～40

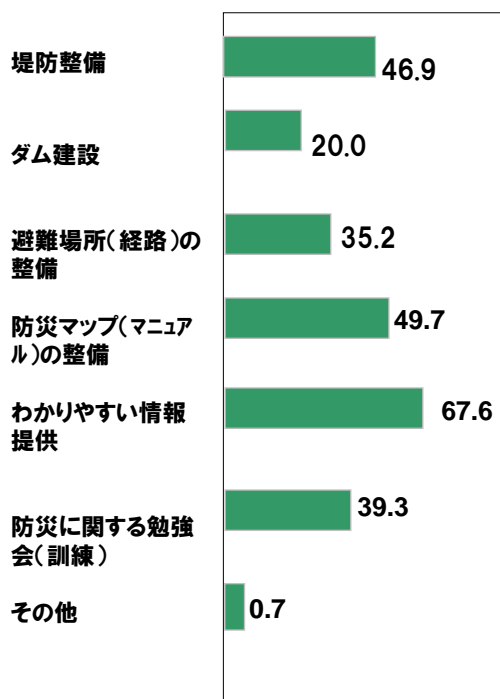
防災・減災に関するアンケート調査

Q8. 大雨や台風の時に入手したい情報は何ですか。



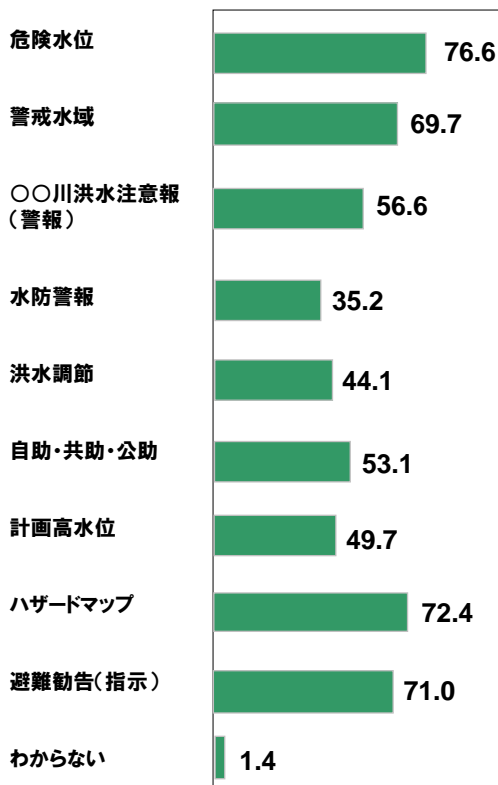
「雨に関する情報」など降水量に関する情報は、やはり多くの方が気にされている。台風だけでなく集中豪雨などで交通機関が混乱するので、交通情報の入手も要望している。

Q9. 防災・減災害を行うために必要なものは何だと思いませんか。



防災・減災への要望では、「わかりやすい情報提供」が求められている。その他、約5割の方から「堤防整備」への要望があり、ハード面での整備が求められている。

Q10. 次の用語のうち、意味がわかるものを教えてください。



「危険水域」「避難勧告」など、日ごろテレビ・ラジオなどのニュースで伝えられている用語の認知度が高い。また、災害への関心度が高い方(フォーラム参加者)へのアンケートなので、ハザードマップの認知度も高い。

Q6. Q6で、「わかりにくかった」「どちらかというわかりにくかった」を選んだ方の自由記入 計8件

わかりにくかった理由	性別	年代
河原教授の発表にはレジメがあれば分かり易かった。水害発生の原因についての明確な発言がなかったので有効、適切な対策の立てようがないと思った。(パネルディスカッション)	男性	60代
テーマはともかく、もっと絞って話してほしかった。	男性	60代
ピンポイント、事前に打合せをされ(フォーラム開催に当り)対策されていて良かった事象(点)足らなかった点等を具体的にリストアップされ配布されると「ねばならない事」がより良く判った。のではと考えます。	男性	60代
マイクの影響が声がわれるのか聞きづらかった。資料があるとよくわかるのでは。以前、郵便貯金ホールでNHK解説委員の話をきいた時は、とてもわかり易く資料もあり、よかった。	女性	60代
もっと資料があった方がわかりやすかったのでは思う	男性	60代
基調講演にスピードが早く、要点がつかみにくかった。	男性	70代以上
日付がはっきりしない	性別不明	年齢不明

Q7. このフォーラムに参加してあなたが感じたことや、防災・減災に関する地域の取り組みを進めていく上で課題など、どのようなことでも構いませんのでお聞かせください。(自由記入)

自由意見	性別	年代
情報の大切さ。家族、地球がこわれつつある、こわれている中での自主防災のむつかしさ。打開策を具体的に話合っしてほしい。	男性	60代
“災害は忘れた頃にやってくる”といった感じだが対策を構じる上で、予算・人材etcの制約があり、これが課題。勿論住民の知識・意識の向上が前提であるがパネラー1部暴論あり。	男性	70代以上
「自分の身は自分で守る」という事を改めて考えさせられた。	男性	40代
「災害は忘れた頃にやってくる」という教訓をすべての立場の人間がまだ実感出来ていない。国、自治体、住民の連携がとれていない。一年どもっとも雨が降やすい時期のまっただ中にやらないでほしい(もうちょっと時期をずらしてほしい)	男性	30代
カトリナの例を教えていただき、予想以上の災害発生の可能性の高さにつよい危機感を感じた。住民意識を高める手法の難しさと構築の重要性がわかった。(行政間の役割分担設定が課題ではないでしょうか?)	男性	30代
フォーラムではもう少し会場からの質問時間を長く取ってもらいたかった。自主防災組織の組織率がかなり上って来ていると聞いているが地域住民のその存在や活動が十分に周知されていないような感じるのでPRをお願いしたい。	男性	50代
フラッシュによる写真はやめてほしい。	男性	40代
何年ぶり、周期等は今後あてはまらないからではないか。30年100年！適切な避難時期、情報の伝達方法・河川改修	男性	60代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
何年ぶり、周期等は今後あてはまらないからではないか。30年100年！適格な避難時期、情報の伝達方法・河川改修	男性	60代
災害化の継承・防災教育(人材育成の為の)重要性・行政主動によるソフト防災対策の推進。マスメディアの重要性(どのような情報を、どういった手段でどのタイミングで発信するか...?)	男性	20代
住民の防災意識の向上。行政のみに頼らない自主防災体制の構築	男性	40代
地域の自宅防災組織のリーダーが不足している。	男性	70代以上
防災に関して、ハード(堤防等)の対策は限界がある(時間がかかる)住民(地域)の危機管理意識の向上が必要と感じた。行政として出来ること。行政としては情報伝達公開、連携が重要だと思う。	男性	20代
ハザードマップ自体のことは知っているが、自分自身の住む町にそれがあるかないかが不明である。住民に対して「情報提供の方法」を見直すべきではないのか。新聞の広告等と一緒にマップを入れて下さい。国や自治体(市)は〇〇を整備している、〇〇の情報を提供していると言って、やるべき事はやっているといった態度でいる。しかしその情をどう住民へ理解して頂くのがより重要と考えます。作ることや発信することのみが仕事と考えているのでは？これが官民の一体化を阻害する一つの理由ではないでしょうか。	男性	30代
天災に対するシミュレーションから防災マップにより災害予知の日常から認識が必要だ。災害発生時に地域の防災マニュアルによる防災対策の一つのコントロールであらゆる関係者が一体となって情報・状況の変化により対応が必要だ。(地域住民一体の防災対策と組織と自主防衛)災害・被災は避けられないので被災地のインフラの回復力の強化が必要。	男性	50代
一地域行政の防災担当の判断能力が十分か？適来な人材が居るのか？DATA分析は出来るのか？などに対して危惧2高齢者対策は？	男性	50代
あまり、まとまっていなかった気がしたが、有義的なフォーラムであったと思う。基調講演の発表が早足だったのが残念でならない。発表の資料があれば、もっと理解し易かったと考える。会場、人員は適当でした。	男性	20代
いつ起るか分からない災害に対し、被害軽減するには、自助、共助、公助が多いに必要である。マスコミ等を利用し、更にPRをすることが必要。	男性	50代
インターネットの情報公開はすでに完了している。今後は、その情報をいかに理解・使用してもらうか。広報活動。	男性	40代
サブタイトルに期待が大きすぎたのかな～？	男性	60代
なぜ災害が発生し、被害を拡大したかを分析し、今後何をなすべきかを明確にし、優先順位をつけて実行すべきである。同じ災害を何度もくりかえさないこと。(ダム管理、河川管理)情報の出し方が一方向で独善的でないか、反省が必要では？	男性	50代
ハード面での対応は確かに限界がある。ソフト面について今後は充実させ自分で身を守る事も大切であると感じた。	男性	50代
ハード面で災害を防ぎきれないのであるからソフト面での対応が重要となってくる。それを行政のみに求めるのではなく共助、自助の取り組みがスムーズに出来る環境が必要で、このようなフォーラムを自主防災会や事業所等の単位で行う必要がある。ただ今回のフォーラムでも、高齢者が8割以上参加されていたように思うので、若い働きざかりの実働として活動出来る人の参加ボランティアの参加が必要か。	男性	50代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
ハード面の遅れに対しソフト面に対応しているかについて考えさせられた。ソフトだけで対応するのは厳しいものがあると感じた。	男性	50代
ハザードマップの存在不明。ハード対策の確大、新設及び補強・強化。高潮に対する浸水区域と津波の時はどうなるか予測が必要。	男性	70代以上
パネラーは、聴集に何を話すか？目的をはっきり、コーディネーターは、パネラーに話しやすくするよう、言語を明確に(ボンボンが多い。)災害は、人命にかかること、それだけに多くの人が集った。	男性	70代以上
フォーラムに参加している方々は高齢者の方が多かったので、高齢者にわかりやすいツールで情報提供を行う必要がある。	男性	20代
もう少し生の声があった方が良い	男性	60代
もっと細い点、地域での弱者・障害者・高齢者への対応等についてのお話しが欲しい。	男性	60代
もっと住民の意見の機会を入れてほしかった。	男性	60代
安佐町に住んでいるので太田川の増水等の情報も必要だが、山から土石流の危険情報も流して欲しい。	男性	50代
映像がよくわかるので町内会でもこのような活動をして頂きたい。	女性	60代
家族に対し、防災の大切さをよく理解させる。又、大雨警報等が発令された際の対応についてもよく話しをして、被害を最小限に食い止めることを常に考えておく。地区の方々との協力が不可欠である。	男性	40代
過去の災害の情報の衆知。	男性	70代以上
過去の災害を知ることの大切さ。危機管理体制の構築の重要性。災害現場の生の声、様子(安佐北区、宮島)などは身にしみてわかる気がする。	男性	40代
我が自治会では、まだ自主防災組織ができていません。自治会ばなれ、自治会無関心も作用しているかも知れません。一人一人がいざという時を想定して、改めて絆を再構築していくべきではないか。	男性	50代
我家の防災対策は皆無に近い。避難場所も認識していなかった。まず災害はないだろうという思い込みが良くないかもしれない。	男性	40代
健康な人達は自分で情報を集収し、自分で災害に備え早めに避難すればなんとかなる。健康な人には自分の身は自分で守るが当てはまるが問題は1人暮らしの高齢者である。インターネットや携帯電話で情報を知る事が出来ないとかパソコンなど使えない人が多い。体も動かない人が多い。こういった人達を日頃から行政でリストアップしておくなど個人情報とか細かい事を言わず、柔軟に対応して欲しい。	男性	30代
減災・防災に対する講演・提案時間が少なかった。もう少し専門的な意見・提案には時間をかけて欲しい。	男性	50代
減災の大切さがわかった。自分は自分で守る。	男性	50代
個人が常日広防災意識を持つ事が大事かと思えます。今後は多くの人にいかにして意識を持ってもらうかが課題かと思えます。	男性	30代
個人の意識の向上	女性	50代
個人の力では限界があるので自治体での公共工事での整備の促進をして欲しい。公共工事の予算が少なく思える。海岸の整備、川の整備が遅れているように感じられる。	男性	40代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
洪水被害に対して国、行政と市民の間の責任分担を明確にする。国は明確なハザードマップを公開し危険地帯を伝える。住民は住民自身で安全を確保するか把握する。	男性	60代
行政、研究所と連携。地域ごとの防災啓発活動を4～6月にかけ毎年やる必要がある。予算的限界のある中、また公共事業削減の中、行政、ハード面の限界を感じた。	男性	30代
行政の防災、減災の取り組みを一般市民により分かり易く伝える取り組みが必要である。	男性	40代
行政の連絡は良くない。コーディネーターは一般の意見をつのつたが、所長に返事をさせないのはいかがなものか？100年に1度の水量に近いものが、ひんぱんにあるとは不安なので、説明受けたかった。コーディネーターの長ったらしいまとめより、説明受けたかったというか、まとめが長い。	男性	40代
行政も減災に関する取り組みをどんどん進めてほしい。・降雨予測を用いた浸水予測(HPでの公開)等。・ハザードマップの周知・徹底を図る。・内水対策、内水ハザードマップを進めていく必要がある。	男性	30代
行政間の今迄以上の連携が必要＝地域にも知らしめる方策。今回のフォーラムも参加の自由意志でなく、難しい事かも知れないが重要と考えられる個所は強制的に参加、勉強会を開催する。日常から見聞する機会作り、学区単位でも話しを聞かないのが現状。◎水野所長の話はもっともまさしくそのピンポイントを事前に告知を！私はフォーラムに参加したからこの情報は入手出来た！が未参加者は？	男性	60代
講演で海外の話は短めにして日本国内の事をもっと話をしていただきたい。	男性	40代
高齢化社会へ向けての地域コミュニティの充実	男性	40代
国の財政が悪く、ハード整備がむずかしい中で住民(防災協)、消防、行政(国・県)大学が各自の視点と全体の視点でハード整備の優先順を定めて、その欠点をソフト対策でうめる。また各種情報の伝達やコミュニケーション方法を良くする。	男性	40代
今回のフォーラムで水害に備える意識を高める必要性を感じました。しかし消防署長やRCCからお話がありましたように地震や火災等による災害もあります。今後も同様なフォーラム等で、情報提供をお願いします。	男性	40代
今回のフォーラムで得た知識を今後の防災・減災に生かせたらと思います。	男性	60代
今回は両王時でも聴衆が多かった→このような催しは期間をおいて複数回実施し又毎年行って欲しい。	男性	70代以上
災害に対する意識不足(地域も含め)、もし地域にあるのであればPR不足、水の所在の発信の中で情報を出している。高令者がメールが使えなければ、子供、孫他にメールを使わせ情報をとる。これは情報を媒体に伝えTV・ラジオ等で伝える事が必要。高令者はTVを見ている。	男性	60代
災害は忘れた頃にやってくるとの教訓の再自覚。自分の身は自分で守るという認識と具体的行動が自然体できるように日頃の心構え・訓練が必要であると痛感した。	男性	50代

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
災害をわすれないうちに、ハードウェアの整備をお願いします。忘れると予算もつかなくなる。大変有意義であった。	男性	40代
災害時避難行動時には携帯ラジオは役立つ治具の一つで、一家一台でなく一人一台の普及の呼びかけは納得できます。危険についての注意・警告の情報は関係機関又は、報道機関から発信されているのだから、自分の身は自分で守る意識を持って情報を取りこいく心構えが必要と十分理解できました。地域の自主防災組織への参加と防災訓練も体験する必要を感じます。さてどうするかは今からこれから組みながら考えます。	男性	60代
参加者が高齢者が多い。実際の災害時には若い人の力が必要若い人が参加するような魅力(?)宣伝の工夫を。	男性	50代
山間地域でどこで災害が起こるのかわからない。司会へたくそ。良い人を。	男性	60代
私が住んでいる地域では総体的に防災、減災についての意識がうすい(私を含め)。行政も取組み方が弱い。災害が起きてからでは遅い。もっと積極的な取組みが必要。最終的には“自助”が最も主要ではあるが、その為には知識を身につける必要がある。	男性	70代以上
自主防災、自分の事は自分で、自分の街は自分でと言われ意識知識をしっかり身につけたい。	女性	60代
自主防災の重要性を認識できた。	男性	50代
自主防災活動～各地域にマニュアルがあるようですが、自分は知らない。災害時に、自然に住民が活動できるように平常時から訓練されていないと意味がないと思う。	男性	60代
自主防災組織の活動を充実させる必要がある。	男性	50代
自分で出来る事は日頃から常に心がけておく。	女性	60代
自分の住んでいる所が、そういう所だということがよくわかった。「とんこ石」など水害の歴史をとどめるものが、道路開発でとりこわさせることを聞くと、「とんこ石」が伝える防災意識が低下していくようでこわい。	女性	30代
自分の住んでいる地域の情報が提供されていない。	男性	40代
自分の身は自分で守る。行政や他団体の支援は当然としてまさに自主・自立した地域組織にする為に地域としての具体的な対応を教育、訓練等を通して意識の向上を図ることが大切である。	男性	40代
自分の身は自分で守ると云う観点から、防災・減災のハードを整備するために国の補助金の充実が必要と思う。又、企業や製造者側の情報を防災・減災のグッズ・ハード開発により一層生かして欲しいし、災害時にも行政まかせでなく防災に関係ある土木業・建設業・機械メーカーなどには自主的に被害を防ぐよう日頃から連携・コミュニケーションをとるべきである。	男性	40代
自分の防災の意識レベルの低さを思い知らされました。自ら情報を取りこいくということをすぐに行うと思いました。	女性	30代
自分自身の危機意識をどう高め持続していくかが問題。	性別不明	60代
社会福祉協議会という組織があります。普段は地域の死亡、葬式の案内などをしていますが、災害時に例えば、潮位が何cmとか、そういった災害情報に活用したらよいと思う。特に老人だけの世帯も多く、近所の人も自分と家族で精一杯で手が回らない。	男性	70代以上

防災・減災に関するアンケート調査

自由意見	性別	年代
地区の町内会で進む方向に参考になった。	男性	50代
中区に住んでいる関係上、高潮等水害に対する取り組みを痛感する	男性	70代以上
長い長い話して、くたびれた。言いたい事は分かるので断片的に。	男性	60代
堤防の整備をもっと進めて欲しい。	男性	30代
日頃からの「災害」の継承が必要であり。自分の地域だけ、自分の家だけは例外という間違った意識を特になく、また行政任せでなく「自分の身は自分で守る」ような防災意識が必要と思った。災害弱者への取組みが不可欠である。* 毎年毎回行なわれるセミナー、フォーラム参加者(高齢、男性、自治体職員)が片寄っている事が気掛り。	男性	50代
日頃の防災に対する意識、どう行動するか、家族との連絡、避難場所の確認、冷静沈着な判断、常に気象情報などに関心を持っている事が大切だと感じた。	女性	50代
防災・減災は人の知恵と人の和であると思う。地域での「和」のうすれは、大きな問題である。地域の連携は防災の基本である。その基本を十分発揮させるのが、行政等の取り組みである。	男性	50代
防災については各自が充分注意して、行動する事と思う	男性	70代以上
防災意識の向上と一口に言ってもその為に何が必要なのか、どうすれば良いのか行政の方も含めて分かっていないのではないだろうか。一方的に情報を与えるだけの指導では不十分だと思われる。地域で自主防災会があったとしても地域住民全員が周知しているわけではないので、自主防災会でどれだけ訓練しても「共助」といえるまでにはほど遠いのではないだろうか。以上の問題点を解決していく方法を住民や行政が真剣に考える必要があると思う。	女性	20代
防災講座はもっともっと開催するべきだ。行政、報道機会(TV、新聞、etc)はその意識、認識を強めるべきである。	男性	60代
例えばこの10年でIT関連の機材がすごく進歩してるのにそれを生活に生かす事をもっと真剣に取り組んでほしい。人工衛星の写真等読めるように...お互いのレベルを上げよう。	男性	60代

防災・減災に関するアンケート調査

住所

	男性	女性	計	
広島市中区	13	2	15	98
広島市西区	12	2	14	
広島市東区	11	0	11	
広島市南区	6	2	8	
広島市安佐南区	18	5	23	
広島市安佐北区	19	1	20	
広島市安芸区	4	1	5	
広島市佐伯区	2	0	2	
東広島市	3	0	3	
廿日市市	4	1	5	
呉市	5	1	6	
府中町	6	1	7	
安芸太田町	1	0	1	
江田島市	1	0	1	
熊野町	1	0	1	
三原市	3	0	3	
尾道市	1	0	1	
福山市	2	0	2	
海田町	4	0	4	
大阪市	1	0	1	
岩国市	1	0	1	
坂町	1	0	1	
不明	8	2	10	
	127	18	145	

アンケート回答者の内、約67.5%の98人が広島市。
性別では、約87.5%の127人が男性でした。

職業

会社員	52	43.0%
公務員	27	22.3%
自由業	6	5.0%
農林水産業	4	3.3%
パート	1	0.8%
専業主婦	0	0.0%
学生	0	0.0%
無職	29	24.0%
その他	2	1.7%
	121	100.0%

アンケート回答者の内、会社員が約43%、無職が約24%、公務員が約22%でした。

性別・年齢

	男性	女性	計	
20歳未満	0	1	1	0.7%
20代	6	1	7	4.8%
30代	9	3	12	8.3%
40代	21	2	23	15.9%
50代	39	5	44	30.3%
60代	32	4	36	24.8%
70代以上	20	2	22	15.2%
	127	18	145	100.0%

アンケート回答者の内、最も多いのが50代の44人(約30%)、ついで60代36人(24.8%)、40代・70代が15%台で、中高年の関心が高いことがわかります。